

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500419		
法人名	社会福祉法人サン・ビジョン		
事業所名	ジョイフル新那加 認知症対応型共同生活介護		
所在地	岐阜県各務原市那加新那加町28-2		
自己評価作成日	令和4年10月31日	評価結果市町村受理日	令和5年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JieyosyoCd=2190500419-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別の状態に合わせ、家事活動やレクリエーションに参加して頂いている。またフレイル予防の為、ボールやセラバンドを使用した体操を日常的に設けている。家事活動の見える化の取り組みを通し、利用者が出来ることや興味のあることの共通理解を深めて関わりを持つ中で、一人ひとりの個性を大切に生活支援を行っている。感染予防対応のもと、スーパーへ買物等の外出支援を再開し、面会は個別の希望に応じて土日祝日も含め出来る限り対応している。利用者とその家族、また地域社会との交流が途切れぬよう、また利用者にとってメリハリがあり、風通しの良い生活づくりを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は駅に近く、また、地元の商店街やスーパーも近い好立地にある。職員が、利用者の尊厳を守るために、常に声かけ方法を意識している姿が見受けられた。また、食事支援の場面においても、買い物や準備、片付けなど、本人ができることを職員と共に進めるなど、残存能力の維持・継続できるよう支援していることが感じられた。法人は特別養護老人ホームや小規模多機能居宅介護、ケアハウスなどを運営しており、法人間で移動ができるなど、重度化した場合の対応も可能という強みを有している。コロナ禍においても、法人内で協力し合う事ができ、支援の層の厚さが感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼にて、法人の理念を読み上げている。理念は職員ルームに掲示しており、確認を行う中で共有と意識の浸透を図っている。	すべての職員が目にする事ができるよう、職員ルームに理念を掲示している。また、朝礼時に読み上げることで、職員各自が理念を意識し、日々、利用者への支援の実践につなげている。	職員のみでなく、本人や家族、来所者等、誰もが理念を確認できるようにする事が望ましい。事業所が大切にしている思いを外部へ発信し、地域に根差した活動の更なる展開に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と共に清掃活動参加や、近所の和菓子屋等へ散歩を兼ねて出かけている。食材買出しの為スーパーへ外出も行っており、少しずつ地域との交流が再開している。	コロナ禍にあっても、地域とのつながりを維持するための取り組みが徐々に再開されている。地域の清掃活動には、職員だけでなく、利用者も参加し、地域の一員として役割りを持った上で交流することができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前は秋祭り等の施設行事に地域の方を招いたり、ボランティアの受け入れを積極的に行っていた。昨年は認知症カフェを開催し、地域の方と認知症状や介護施設に関する質問等の意見交換を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年3回開催しており、昨年度は全て会議形式で行い、今年度も継続中である。身体拘束や虐待予防の取り組み状況等を報告し、参加者との意見交換や地域の情報を得る中でサービスの向上に活かしている。	運営推進会議には、行政・地域包括支援センター・民生委員・家族代表が、ほぼ毎回参加している。当月に行った避難訓練も、会議メンバーに参加・見学してもらうことで、より事業所について深い理解を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、毎回市の担当者が参加している。新加算の算定や新型コロナウイルスの関連情報等、担当者に相談や確認を行いながら連携を図ることの出来る関係性がある。	運営推進会議には、毎回、担当者の参加を得ている。未だ、コロナ禍にあるため、電話やメール、FAXなどを活用しながら、その都度、相談や報告を行い連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会の開催や、フロア会議にてスピーチロックへつながる言葉遣いの見直しを行い、適切な言葉の置き換えについて意見交換し、身体拘束に関する理解を深めている。法人として、身体拘束は行わない指針が掲げられている。	年3回、身体拘束適正化検討委員会を開催し、併設施設とともに、全職員対象で研修も行っている。参加できない職員は、伝達研修などを通じて、共通理解に繋げている。スピーチロックについても、フロア会議で意識の共有化を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会の開催や、虐待予防に関するチェック(自己点検)を行い、虐待に関する理解を深めると共に、日頃のケアを振り返る(虐待防止につなげる)ことが出来ている。		

岐阜県 ジョイフル新那加グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の利用を考慮する際は地域包括支援センター等に相談し、利用者が安心してサービスを利用して頂ける体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約等については利用者や家族に説明を行い、理解を得た上でサービスを開始(終了)して頂いている。要望が挙げた際は職員間や主治医等と協議し、その方にとって必要なサービス支援を調整している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回カンファレンスや満足度調査を行っており、挙げた意見や要望については職員会議で共有し検討している。調査結果は家族へ配布しており、(様式は任意での記名としている為)意見に対して個別でも返答している。	カンファレンスや満足度調査を年2回行い、組織として、本人・家族の意向が反映される仕組みを整えている。9割の家族がカンファレンスに参加している。また満足度調査の結果については通信などを通じて家族に伝え、運営にも反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回職員満足度調査を行っており、挙げた意見については検討し、運営に反映している。個別面談も行っており、意見を把握して縦の繋がりがりや横の繋がりの調和を図り、働きやすい環境整備に取り組んでいる。	年2回の職員満足度調査に加え、個別面談も年度初めや随時、行っている。管理者は、情報の風通しを良くするよう努め、職員も自らの考えを述べる機会を与えられている。職員から、働きやすい職場であるとの声を聞くことができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として有給休暇取得を推進しており、職員満足度調査をもとに、連続休暇希望者には4日間の連続休暇が取得出来るように調整している。職員個々のモチベーションアップとなるよう、環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や介護福祉士等の資格取得支援体制があり、個別の希望や力量に応じて、働きながらスキルアップ出来る環境が整っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生の受入れや、オンラインによる会議や研修を通して情報を取り入れながらネットワークづくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には利用者と面談している。本人や家族等から得たことは職員で情報共有し、本人との会話や話題の情報源として活用する中で関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には法人の方針等について説明し、家族の意見や要望を伺い、理解を得た上で利用を開始して頂いている。得た情報は職員で共有し、家族との関係づくりに活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談や情報をもとに利用者にとって必要な支援を考え、併設事業所や法人内事業所と連携しながら他のサービス利用が望ましい場合はそちらの利用も提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人の生活場であることを念頭に置き、職員都合ではなく個人の目線に立てて出来ることややりたいことを考え、個別の支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望より土日祝日も面会対応を行い、本人との面会機会を増やしている。本人との電話を取り次ぐ場面もある。個別で重点的に情報提供している方もみえ、希望に応じて柔軟な対応に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月家族に便りを発行しており、事業所の取り組みや本人の様子について写真とコメントを掲載し報告している。自筆が可能な方には直接コメントを記入して頂いており、便りを楽しみにされている家族もいる。定期受診等の外出支援も対応している。	利用者の写真を多く取り入れたホーム便りを毎月発行し、家族に送付している。便りには本人が自筆可能であれば、名前だけでも書いてもらったり、希望に応じて本人の写真を増やすなど、個々に応じた紙面の工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について職員が把握し、食事席の配置や家事参加場面において配慮している。それぞれが個性を発揮して活動して頂けるように環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、次の受入れ先等の相談援助を行っている。併設事業所や法人内事業所に移られる方が多い為、サービス利用が終了しても繋がりが継続している方が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の発言を「つぶやき」として収集し、その思いや希望を具体的な支援に繋げている。発言が挙がり難い方については行動や家族からの情報をもとに思いの把握に努め、個別対応を行っている。	利用者の「つぶやき」を拾い上げて収集し、専用シートを設けて発言の意図や経緯など、丁寧に分析している。これらをフロア会議やケアプランに反映させ、本人の願いや意向を支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等からの情報をもとに状態を把握し、共有することで一人ひとりのニーズや習慣を考えた生活づくりを支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家事活動の見える化の取り組みとして、職員が情報共有する中で個別の状況を把握し、残存機能を活用しながら出来ることを継続して取り組んで頂けるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に1回ケアカンファレンスを行い、3ヶ月毎にモニタリングを行っている。カンファレンスは家族の希望に合わせ、日程調整している。利用者や家族の思いを把握し、専門職の意見を取り入れながら介護計画書作りを行っている。	本人の意向は、日々の「つぶやき」なども参考にし、家族や看護師などの専門職の意見を取り入れながら、ケアプランを作成している。モニタリングでは丁寧に振り返りを行い、評価期間中の出来事も踏まえ、次のプランへ反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りシート等を活用して情報共有し、職員会議にて検討を行っている。家事活動の見える化の取り組みとして、介護記録にて画像を共有することで状況が把握し易くなり、ケアの実践に繋がっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに応じて、介護タクシーの利用案内や介護保険外での訪問介護支援事業所による受診同行手配等を行っている。職員間や主治医等と連携し、利用者の状態に合わせて柔軟な対応に努めている。		

岐阜県 ジョイフル新那加グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の清掃活動やスーパーへの買物等、本人の状態や意向に応じた支援を考えて取り組んでいる。個別活動については家族に報告し、情報共有している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のニーズに応じて契約時に確認を行い、入居前より利用されているかかりつけ医の継続や、施設協力医の移行手続きを支援している。往診や通院についても意向に沿って対応しており、看護職とも連携しながら体調管理を行っている。	入居時に、本人・家族の意向、通院や往診などの受診方法などを総合的に判断し、選択ができるよう提案がなされている。医療機関と連携しながら、状況に応じて、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の異変や皮膚状態の異常がみられた際は看護職へ報告し、指示や対応を仰いでいる。日中のみでなく、夜間も含めた連絡体制を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は医療機関と連絡を取り合い、退院後の受入れが円滑に進むように調整している。治療が長引き契約解除となった後も、再入居の希望があれば調整を図り、受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に重度化や終末期の対応は行っていないことを説明し、理解を得てから利用を開始して頂いている。状態が変化しグループホームでの生活が困難になられた際は、利用者の意向を確認した上で併設事業所等と連携し対応している。	契約時に、重度化や終末期の対応を行っていないことを丁寧に説明を行っている。本人の状態が変化した場合は、早期に関係者で話し合い、他の施設への移行や医療機関への入院等、本人・家族が安心できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハットを積極的に収集し共有することで、個別の習性等を把握し、対策を講じる中で事故予防に繋げている。緊急時対応のマニュアルがあり、定期的に確認を行う中で急変時に備えた職員の意識付けを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施し、参加出来なかった職員には資料回覧で伝達を行っている。食料の備蓄場所も周知している。11月の運営推進会議にて防災訓練を行う予定であり、地域との連携体制強化に繋げている。	避難訓練は防犯訓練等、ケース別で年3回実施し、夜間の火災を想定した避難訓練には、運営推進会議メンバーの見学、参加を得て、年1回実施している。災害用の備蓄に関しては、同法人の併設施設と合わせて3日分を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の疑似体験を行い、利用者視点の思いや気付きを養い、情報共有することでケアへ活かしている。職員会議で言葉遣いに関する振り返りを行い、相手の立場になった対応を考え、実践するように取り組んでいる。	職員自身が利用者の立場を理解できるよう、高齢者疑似体験などを行っている。トイレ誘導の際には、一人ひとりの尊厳を大切に声掛けをしている。各居室にもトイレがあり、さりげない声かけで、プライバシーに配慮しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を把握して情報共有する中で、一人ひとりの状態に応じて自己決定出来るように働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いや習慣を把握して情報共有する中で、一人ひとりの生活ペースや体調に沿って柔軟な対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望や習慣に応じて、化粧品や整容品を家族に用意して頂いている。希望に応じて訪問理容室を利用して頂いており、髪の長さ等の細かい要望にも出来る限り対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食手作りであり、食材は利用者と共にスーパーへ出かけて購入している。調理や盛り付け、配膳等、一人ひとりが出来ることを考えて取り組んでいる。おやつづくりのレクリエーションを行っている。献立は利用者の希望を取り入れており、食の楽しみを支援している。	利用者の希望を取り入れながら献立を立て、職員が調理している。食材の買い出し、食事の盛り付け、配膳や片付けなど、それぞれの場面で、本人ができることに関わるよう、自立に向けて支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好等を把握し、摂取状況を毎食記録している。疾患に応じて主治医より食事制限等の指示があれば、ストレス等の状態観察を行いながら個別に対応している。毎月体組成を測定し、健康管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に応じて出来るところは行って頂き、声かけや確認が必要な方は介助している。義歯の不具合等の異常があれば歯科受診をすすめており、希望があれば訪問歯科の手配を行っている。		

岐阜県 ジョイフル新那加グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状態に応じて、日中や夜間のトイレ誘導を行っている。オムツを使用されている方は、状態の変化に合わせて家族に相談しながら排泄用品を検討しており、オムツから布パンツへの移行も提案している。各居室にトイレがあり、プライバシーが保たれている。	トイレ誘導の際に、「トイレどうですか？」ではなく、「少しいいですか？」と声をかけることで、本人のみがわかるように声掛けを行っている。ポータブルトイレの利用や排泄用具については、家族と相談しながら検討し、自立に向けての支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時はヤクルトとのむヨーグルトを提供し、栄養バランスを考えた食事を提供している。日常的に運動する機会を設けており、個別の状態に応じて適度に身体を動かすことで便秘予防に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の状態に応じて、見守りや洗髪介助を行っている。個浴であり、使用後は毎回浴槽を清掃し、湯の入れ替えを行っている。概ね2日に1回のペースであり、希望に応じて入浴時間や湯温を調整し、寛げる空間となるように整えている。	2日に1回のペースで入浴できるよう支援し、本人の体調や希望に応じて調整を行っている。入浴の時間は職員とマンツーマンであることから、本人のつぶやきを丁寧に拾う機会となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態や体調に応じて、家事参加や運動等の日中の活動をすすめることで夜間の安眠に繋げている。本人の習慣や拘りに合わせて、安全を考えながら照明や室温調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の状態に応じて服薬介助を行い、薬を飲み込まれるところまで確認している。処方された薬は前回の説明書と照らし合わせて内容確認し、情報共有している。服薬マニュアルをもとに、最新の注意を払い取り扱っている。		
48	※	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状態に応じて、出来ることや興味のあることを個別で提供している。本人が意欲ややりがいを持って取り組んで頂けるよう、検討している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スーパーへの買物同行や、個別の希望に応じて日用品の購入等の外出支援を行っている。レクリエーション等で制作した作品をイオンで開催された作品展に出展し、その様子を観賞する為に外出した。外出時の様子は撮影し、家族へ配布する便りに掲載している。	コロナ禍にあっても、感染予防をした上で、スーパーへの食材の買い出しや日用品の買い物に出かけている。また、紅葉狩りなど、季節を感じられるような外出機会を作り、支援している。これらの活動は写真に残し、便りに掲載して家族と共有している。	

岐阜県 ジョイフル新那加グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時に小遣いの取り扱いについて説明を行い、同意を得た上で金庫にて小遣いの管理を行っている。個人で金銭を所持されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方がみえ、必要に応じて充電操作等を介助している。希望により、施設の固定電話にて通話を取り次いでいる。家族宛の便りには本人にコメントを記入して頂いており、筆記が難しい方は名前のみでも可能であれば記入して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者による生け花や書道であったり、利用者が作成した壁飾りを掲示し、季節感があり温かみのある空間づくりを行っている。ソファやマッサージチェアが設置され、好きな場所で寛いで頂けるように整えている。	広い共用空間には、利用者と職員が共同で作った季節の作品を掲示している。これらの作品の掲示方法もユニットごとで異なっており、利用者一人ひとりの個性や温かみ、職員の思いを感じられる空間作りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席は利用者同士の関係性や相性を考えた配置となっている。リビングで過ごされる方が多いが、気分や体調に応じて個人が落ち着いて過ごして頂けるように(時に休息を)すすめている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真や、家族から誕生日等に届いたプレゼントを飾ったり、入居前から使用されている使い慣れた物を持ち込まれている方もみえ、安心して過ごされる環境を整えている。日課として掃除をされ、利用者本人が自分の住まいとして整えておられる方もいる。	本人が安心して過ごせるよう、馴染みのソファや使い慣れた日用品、小物、家族との写真、CD等を持ち込むことができる。家具などは、利用者の状態や動線を考え、安全面に配慮して設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に応じて、本人の習慣や拘りを把握しながら安全性を考え、家具の設置や動線等の生活環境を整備している。		